

平成 27 年 7 月 11 日(土) 14 時から甲南アセット大開ビル別館 5 階会議室にて、本年度 4 回目(通算 124 回目)の起業の鉄則研究会が開催されました。参加者は、講師とも 18 名が参加。

今回は、障害を持つ兄が社会で働ける場を自分で起業して作りたいと学生時代に起業し、奮闘されている 20 代の起業家による熱意ある取組みと、全国で学生起業家を育成していこうという流れのなかで、日本政策金融公庫主催の高校生ビジネスプランコンテストの優秀者の動向を交えた NBK New Business Award 応募者への事例を紹介する講義でした。

参加者は、女性起業準備者、青年起業準備者、NPO 法人代表者、大手企業社員、出版社代表、IT 経営者、易学者、ネット事業者、証券仲介業者など様々な業種の方々です。

◆【第 1 部】

「学生起業は是か非か」

- 講師：株式会社ケアラー 代表取締役、一般社団法人 KSIA 専務理事 福島 有二 氏
- ・ 5 人家族で末っ子。兄と姉がいるが兄は障害がある。大学生の頃、兄のような障害者が社会で働ける場を持てる支援をしようと弁護士を目指していた。ホリエモン(Livedoor 創業者)の創業ブームの頃であり、起業して道を開こうと決意し、19 歳の学生のまま起業した。
  - ・ 何ができるか考え、周りの学生に関することであればできると思い、大手飲料メーカーに、主力飲料がどのような商品ルート、単価設定、セールス方法を学生向けに行ったら販売が伸びるかの調査を請け負う提案をし、受注できた。学生の間で HP 作成、メールサービスなど技術が評判のある友人を誘って、請求書など作成会社を立ち上げた。それが(株)ソーシャルデザイン社の「RaQool」事業で 600 社以上が利用中。就職に関して、どの学生が本当に優秀で、どんな特技があるのかは、学生の方が情報は多いので、採用募集企業に希望する学生像を聞き推薦する人材事業を手がけた。また、ユニクロのような英語を公用語にしている企業があり、学生がネイティブな英語を学ぶためのフィリピンへの留学事業も行った。一方、日本では小規模クラフトビールメーカーが多くあり、調べると各社の品質は抜群だが、大量生産できない。そこで、複数メーカーのビールをパッケージ化してネットで定期宅配販売事業 BeerBox を立ち上げた。これら事業で昨年売上高が 1 億円を超えた。これを機に 4 社を売却。
  - ・ 兄のような方々の就労支援を中心に行う(株)ケアラーを立ち上げ、本気で取り組んでいる。障害者自身も大変だが、支える家族はもっと大変。重度障害者は 1 日のうち 95%はつきっきりが必要。親しい医者ができると引越してできなくなる。こういう人たちは世に出てこないが、実は日本でも 6 人に 1 人の割合でいる。こういった方々を支援しようとクラウドファンディングで募金を集めたところ、1500 万円も集まった。ニーズも支援者もいることを確信。
  - ・ 大学を卒業して 6 年間で振り返り、学生起業は是か非か考えた。マイナス面は全て 1 から築くのでコストが高い。ノウハウもない。プラス面は学生でも社長であればどんな経営者の会でも参加できつつ、学生同士のつながりも活かせる。学生起業家は社会問題を解決したくて起業するケースが多い。障害者と暮らしているとお金で解決できないものの大きさを感じる。

◆【第 2 部】

「高校生ビジネスプランの最新動向！」～大人顔負けのびっくりプレゼン続出！日本政策金融公庫 高校生ビジネスグランプリから～

講師：証券アナリスト 窪田 勲 氏

- ・学生向けビジネスプランコンテストの実施状況を調査したところ、東京都と尼崎市が、テーマ設定、切実度、フォローなどの点で充実。「TOKYO STARTUP GATEWAY」は10年後、100年後の日本や世界の姿を見すえたビジネスプランを募集し、優秀者には賞金、最初の顧客紹介など支援。尼崎市も市が直面している貧困と人口減少問題に対するビジネスプランを募集し、採用者にはすぐに市と一緒に、取り組んでいる。関西の大学主催のものも多くは、学生の就職力アップのためのプレゼン技術向上を目的にしたものが目立つ。
- ・日本政策金融公庫主催の高校生ビジネスプラン・グランプリは、学校単位で申し込むスタイルだが、内容が充実。WEBに決勝戦のプレゼン動画がアップされている。各校6分程度の制約のなか、目的や効果、収支などが具体的にわかりやすく説明されている。
- ・静岡農業高校「松葉から生まれる新産業システム」、倉敷鷺羽高校「つなぐハウス」、宮城県立農業高校「最新ARグラス観光で雇用を創出」などの動画を説明しつつ紹介。
- ・NBK NEW BUSINESS AWARD 2015の概要説明、兵庫県内企業の推薦を依頼

・小林塾長からの講評

学生起業については、しっかりしたビジネスプランを持っている起業家は売上の伸びが速く達成度も速い。福島氏は志が高く立派な方であるが、障害者分野では全て民間でやろうとせずに、都道府県をうまく巻き込んでやる工夫が長続きする秘訣になるだろう。応援していきたい。

学生向けのビジネスプランコンテストがこのような形で行われているのはよいことである。日本政金融公庫の決勝戦では、短時間でありながら、メリットなどコンパクトにプレゼンしており、我々も参考にすべきところがある。内容は、本気を出して、産官学が連携できるのか？これは大人の役目だが、コンテストだけで終わってしまうものが多いのは残念。NBKのNEW BUSINESS AWARDは、昨年までのNBK大賞であり、ご参加の皆様は是非ご推薦ご協力願いたい。

終了後、近くの料理屋「雄司」で懇親会を開催。今回の懇親会では、近況報告と率直に意見交換でき、この研究会ならではの出会いや会話ができると好評でした。

次回は8月8日大阪会場にて開催予定。

